

洪水ハザードマップの例

改訂版（北部版）

保存版

須賀川市洪水避難地図

（洪水ハザードマップ）



須賀川市洪水ハザードマップ（改訂版）作成：平成10年3月

平成20年3月

 須賀川市

北部版

浸水区域全体図



凡例

- 浸水深5.0m以上
- 浸水深2.0m～5.0m未満
- 浸水深1.0m～2.0m未満
- 浸水深0.5～1.0m未満
- 浸水深0.5m未満

- 避難場所 水害時の避難場所 (災害時要援護者対応施設)
- 避難場所 水害時の避難場所

洪水避難地図とは？

購買川市洪水避難地図（洪水ハザードマップ）は、阿武隈川、釈迦堂川、清川が大雨によって増水して、堤防の決壊、越水により浸水が想定される範囲とその程度並びに各地域の避難場所などを示した地図です。

阿武隈川については、150年に1回程度（2日間に257mmの雨量【昭和61年8月洪水の1.2倍】）、釈迦堂川、清川については、50年に1回程度（釈迦堂川：24時間に202mmの雨量、清川：1日間に190mmの雨量）の大雨が降った場合を想定したものです。

河川が氾濫する恐れがある場合は、市から避難勧告や避難指示が出されますが、ご自身で危険と感じたら避難勧告が出される前でも、避難をはじめてください。

なお、地図に示した浸水範囲以外の所でも、浸水が発生する恐れがありますので、十分に注意してください。

南部版

避難時の心得

① 安全な避難路の確認を



避難場所までの経路(避難路)は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。

③ 正確な情報収集と自主的な避難を



ラジオ、テレビ、インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

⑤ お年寄りなどの避難に協力を



お年寄りや子供、病気の人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子供、病気の人の避難に協力しましょう。

⑦ 車での避難は控えて



自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別な場合を除き控えてください。

② 非常持ち出し品の事前準備を



避難するときの持物は必要最低限とし、事前に準備しておきましょう。

④ 避難の呼びかけに注意を



市役所や消防団から避難の呼びかけがあった場合には、速やかに避難しましょう。避難の際には、電気やガスなどの供給と戸締りを行ってください。

⑥ 動きやすい服装、2人以上での避難を



避難するときは動きやすい服装で、靴は、履き慣れたものにしてもらいます。2人以上での行動を心がけましょう。

⑧ 堤防に車を放置しない



水防活動の妨げになりますので、自動車を堤防や道路に放置しないようにしましょう。

普段の心がけ

1 天気予報や気象状況に気をつける

梅雨時や台風シーズンなど、洪水が起こりやすい時期には、テレビ・ラジオ・新聞の天気予報に注意し、天気の移り変わりに気をつけましょう。

2 非常食や持ち出すものなどを準備しておく

非常食には、調理の手間がかからず、水もあまり使用しないもの(レトルト食品や缶詰等)を選びます。また、懐中電灯やラジオ、乾電池も忘れずに用意しておきましょう。

3 大雨や台風へ備えて家のまわりを点検・整備しておく

家のまわりに吹き飛ばされそうなものはないか、戸戸と雨どいなどは壊れていないか確認しておきましょう。また、家の前の排水溝が詰まっていないかなどの確認も必要です。

4 避難場所や避難路を確認しておく

この地図には、洪水時に避難する場所が示されています。自分の地区の避難場所はどこなのか、そこへ安全に行くためにはどう行けばいいのかを確認し、地図に書き込んでおきましょう。

5 一人暮らしのお年寄りなどには気配りを

自分の家族や住みだいでなく、地域全体にも目を向けましょう。特に、一人暮らしのお年寄りや子供、病気の人が、及びその人たちが利用する施設には、普段からの気配りが必要です。

雨の降り方を知っておきましょう

避難時の持ち出し品

洪水時の避難には次のものを持って行きましょう。これらのものは、日頃から準備しておきましょう。

チェック項目	品名	チェック項目	品名
懐中電灯	貴重品	折り紙	
携帯ラジオ + 予備乾電池	救急セット	子供用ミルク、母乳用、紙おむつ	
水	衣類・下着類	ヘルメット	
非常食	ローソク + マッチ	携帯ナイフ	
タオル	ロープ	使い捨て食器類	
		ドライシャンプー	
		軍手	
		携帯袋	
		石鹸	
		看護用品	

やや強い雨

1時間に10～20mmの雨



地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら、警戒が必要です。

強い雨

1時間に20～30mmの雨



土砂降りの雨。車を走らせていても濡れてしまうほどの雨です。下水があふれ、また屋根の心配もあります。

激しい雨

1時間に30～50mmの雨



バケツをひっくり返したような雨です。屋根からもおこりやすく、道路がぬかるようになる場所もあります。避難の準備を。

非常に激しい雨

1時間に50～80mmの雨



海のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。水害の発生の可能性は、大。

猛烈な雨

1時間に80mm以上の雨



危険になるような圧迫感があり、恐怖を感じるような雨です。大規模な災害の発生する可能性が強く、警戒が必要になります。